

柴苓湯が有効であった囊腫性痤瘡の2例

明和病院 皮膚科(兵庫県) 黒川 一郎

難治性の囊腫性痤瘡に柴苓湯の投与を行い、著明な改善がみとめられた2例を報告する。41歳、男性。顔面に多発性の囊腫をみとめ、囊腫性痤瘡と診断、柴苓湯とロキシスロマイシンの内服を開始したところ、囊腫の数の減少、囊腫の直径の縮小がみられ、著明な改善がみとめられた。35歳、男性。顔面に囊腫、赤色結節、面皰が多発し、囊腫性痤瘡と診断、柴苓湯とミノサイクリンの内服の併用で著明な改善がみとめられた。以上の結果より柴苓湯の内服は難治性痤瘡の一型である囊腫性痤瘡の治療の選択肢の1つになり得ると考えられた。

Keywords 柴苓湯、囊腫性痤瘡

はじめに

囊腫性痤瘡は治療に難渋する痤瘡の一型であり、治療に難渋する疾患である¹⁾。囊腫に対して、ステロイドの局所注射などが行われるが、その効果は一定ではなく、注射部位の皮膚萎縮、毛細血管拡張などの副作用がみられることがある。今回、囊腫性痤瘡において、柴苓湯を投与して著効した2例を報告する。

症例

症例1 41歳 男性

10年前より顔面に痤瘡が出現し、近医で加療されるも軽快せず、紹介受診。

【現 症】 顔面に紅斑、赤色結節、囊腫、瘢痕を多数みとめ(図1)、囊腫性痤瘡と診断した。

【経過および治療】 当初、ファロベネムナトリウム水和物200mg×3回/日を内服、アダパレン、クリンダマイシンリン酸エステルを外用するも変化はなく、メトロニダゾール250mg×2回/日、トラニラスト100mg×2回/日の内服に変更したが、著変はなかった。その後、柴苓湯4.05g×2回/日、ロキシスロマイシン150mg×2回/日の内服に変更したところ、囊腫数が著明に減少し、囊腫の直径も縮小、顔面の紅斑も消退し、著明な改善がみとめられた(図2)。なお、ice-pick scarは変化がみとめられなかった。また、副作用は特にみとめられなかった。

症例2 35歳 男性

1年前より顔面に痤瘡が出現し、薬物治療が行われていたが症状の改善がみられず、当科を紹介受診。

図1 症例1：治療前の臨床所見



多くの囊腫、紅斑がみとめられる。

図2 症例1：治療後の臨床所見



囊腫、紅斑はほぼ消退。ice-pick scarに変化はなかった。

【現 症】 顔面に多数の面皰、赤色結節、嚢腫をみとめ(図3)、嚢腫性痤瘡と診断した。ファロペネムナトリウム水和物200mg×3回/日の内服、クリンダマイシンリン酸エステル、アダパレンの外用をしていたが著変なく、その後、メトロニダゾール250mg×2回/日を内服するも変化がみとめられなかった。その後、柴苓湯4.05g×2回/日、ミノサイクリン100mg/日内服に変更したところ、2ヵ月後には嚢腫は消退し、赤色結節、面皰も著明に減少した。なお、副作用はみとめられなかった(図4)。

図3 症例2：治療前の臨床所見



図4 症例2：治療後の臨床所見



考 察

嚢腫性痤瘡は顔面に嚢腫、結節を形成する難治性疾患であり、しばしば治療に難渋する。病態は不明であるが、マ

クロファージが関与した肉芽腫性炎症が関与していると考えられる¹⁾。

柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合剤で痤瘡²⁾および痤瘡癍痕に対する有効性が報告されている³⁾。柴苓湯はステロイド様作用、線維芽細胞増殖抑制作用、活性酸素の抑制、細胞増殖の抑制、マクロファージの浸潤抑制、凝固系の活性化抑制、好中球浸潤の抑制、血管内皮細胞の活性化の抑制、炎症にともなう組織の線維化を抑制することなどが知られている⁴⁾。

嚢腫性痤瘡の治療にはメトロニダゾールの内服が有効であるという報告がある⁵⁾。

柴苓湯の嚢腫性痤瘡への作用機序は明らかではないが、マクロファージの浸潤抑制による肉芽腫形成への抑制、血管内皮細胞の活性化の抑制、活性酸素、凝固系の抑制、線維化の抑制などによって、嚢腫形成の抑制、紅斑の消退などがもたらされたと考えられた。

柴苓湯の副作用として、間質性肺炎、偽アルドステロン症などがある⁶⁾。これらの副作用について十分に注意をしながら、治療に当たる必要がある。また、柴苓湯は多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)にも有効であることが報告されている⁷⁾。

嚢腫性痤瘡と関連して、PAPA syndrome (pyogenic arthritis with pyoderma gangrenosum and acne)や関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎などの自己免疫疾患と合併することもある。これらの疾患に柴苓湯が有効との報告があり、免疫学的側面からTh1優位の疾患に対しての効果は興味深いところである。

柴苓湯は多様な薬理作用があることが知られているが、難治性の嚢腫性痤瘡に有効な薬剤の1つと考えられた。

今後、このような症例の蓄積、作用機序の研究が必要と考えられる。

【参考文献】

- 堀口裕治: 嚢腫性痤瘡, 集簇性痤瘡, 劇症型痤瘡に対する治療, 変容する痤瘡マネジメント, 皮膚科臨床アセット8: 238-242, 2011
- 永峯由紀子: 痤瘡および肥厚性癍痕に対する柴苓湯の臨床効果, phil漢方, 22: 18-19, 2008
- 許 郁江: 痤瘡癍痕に対する柴苓湯の臨床的検討, phil漢方, 48: 20-22, 2014
- 牧野利明: 柴苓湯の抗炎症作用, 漢方医学, 38: 114-117, 2014
- 尾口 基 ほか: Metronidazoleによる痤瘡の治療, 皮膚, 29: 995-1000, 1987
- 前田 学: 柴苓湯(抗炎症・余分な水を取る), MB Derma, 211: 41-49, 2013
- 酒井 淳 ほか: 多嚢胞性卵巣症候群に対する柴苓湯の有用性に関する検討—特に排卵誘発について, 臨婦産, 54: 1330-1333, 2000